

さまざまな立場から地産地消に
取り組む方をご紹介します

はまふうど人登場

Vol.67

かながわ
ハーブナーセリー
笛木 英治さん
(泉区)

ハーブをもっと身近に、気軽に

かながわハーブナーセリーは、県内でも珍しいハーブ専門農園です。戸塚区にあるハウスではハーブの苗、泉区にある畑ではスワッグ(吊るしブーケ)などに使う切り花や、食用のハーブを栽培しています。苗や切り花は市場に出荷し、食用ハーブは飲食店に直接卸しており、畑では収穫体験も行っています。「日本ではドライハーブが定着していますが、生の方が本来の香りや風味が出ます。普通の晩ごはん、例えば和風の煮物でも、ハーブを摘んで入れると普段と違う食卓を演出できます」と代表の笛木英治さんは話します。



約200坪ある畑では季節に合わせて50~80種類を育てています。一般の方はもちろん、飲食店のシェフが自ら摘みに来ることも

戸塚区で代々農業を営む家に生まれた笛木さん。観葉植物を中心とする実家を手伝い始めて数年後、栽培品目を増やしたいと選んだのがハーブでした。「当時、イタリアンなどの料理店が増え、市場などでハーブを見かける機会も増えていたことや、手掛ける人が少ないことなどから可能性を感じた」とのこと。実家で苗の栽培を始めましたが、周りに質問できる人は

いません。「試行錯誤をひ



水にフレッシュハーブを入れて2~3時間冷やしておけばアイスハーブティーの完成! 2~3種類入れると味に奥行きが出るそうです

笛木英治さん。大学卒業後「やっぱりスーツを着る仕事に」と企業に就職、その後会社を退職したときにご両親から声をかけられこの道に。ハーブガーデンのデザイン・施工も行う



たすら繰り返し、自己流で栽培技術を身につけるしかありませんでした」と当時の苦勞を語ってくれました。時間はかかりましたが少しずつ軌道に乗り、8年近く前に独立してハーブ園を開きました。

かながわハーブナーセリーでは畑の草刈りは当初から鎌を使った手作業です。また、一つの畑やハウスで何十種類ものハーブを育てるため、管理の難易度は高いです。それでも「性に合っているんでしょうね。自分でやりたいと決めて、ある程度やりたいようにできている」。出荷先の飲食店にも積極的に足を運んで食事をします。「うちのハーブも使って、素敵な料理に仕上げてください。お客さんがそれに満足して帰っていくのも目に見えます」。

ハーブをもっと身近に使っていただきたいという笛木さん。「好きになったら今度は自分で育ててもらうなどして、ハーブが浸透していくといいですね」と話します。



ご自身も料理が好きで、収穫したハーブを使った写真をSNSに投稿することも(写真提供: 笛木さん)

INFORMATION

かながわハーブナーセリー
横浜市泉区和泉町888
(営業時間) 10:00~16:00 (水・木曜日定休)
Instagram: <https://www.instagram.com/kanagawaherb/>

相鉄いずみ野線ゆめが丘駅から
シェアサイクルで10分!
※ハーブ収穫体験は4~11月



2
2025
Vol.67

はまふうどナビ



横浜農場

よこはまの農と暮らしを結ぶ情報誌

特集 花と緑のまち横浜の 花の生産者

開港で外国人向けの花の栽培が早くから開始された歴史を持つ横浜では、花の生産が盛んです。パンジーやビオラといった花の苗や、シクラメンをはじめとした鉢花の生産農家数は全国でも屈指の多さを誇ります!

会場で
待っているよ!



春の里山ガーデンフェスタ2025

3/19(水)~5/6(火・休)

よこはま動物園ズーラシア隣接
(横浜市旭区上白根町1425-4)



アクセスは
こちら!



©川合麻紀

花農家レポート1

里山ガーデンの大花壇に花を提供 永島園芸 (鶴見区)

鶴見区の永島園芸は、シクラメン、パンジーなどの花苗のほか、春には野菜苗も栽培し、市場出荷や直売を手掛けています。市場で働いた経験をもつ永島慎二さんは、花の流行や市場の供給量を見据え、多くの人から愛される定番色を軸にいろんな品種の花を少しずつ栽培しています。里山ガーデンの大花壇にも花苗を提供しており、「ハウス栽培の苗が外でもしっかり育つよう、外気にあて強い苗づくりを心掛けています」と永島さんは話します。農業用ハウスの内部を最大限に活用して並べられた花苗は、最大で10万ポット。直売に訪れる人々に花々の彩りと苗を選ぶ楽しさを提供しています。



永島園芸の代表・永島慎二さん。先代である永島さんのお父様は、シクラメン栽培で農林水産大臣賞を受賞した経歴も持ちます



永島さんオススメの花

Alyssum

例年里山ガーデンの花壇に提供する花苗の一つ「アリッサム」。控えめな小花が花束のように咲き、白や紫、ピンクの花色も



左) 春の里山ガーデンの花壇に提供するパンジーの苗
右) 生産者として寄せ植えも手がけています。季節に応じて、永島さんが苗を組み合わせます(写真提供: 永島園芸)

INFORMATION

永島園芸

横浜市鶴見区東寺尾1-19-20
(TEL) 045-572-5628

横浜市からのお知らせ



2025年度 はまふうどコンシェルジュ講座 19期受講生募集! (予定)

講座日程 2025年5月~7月頃【全5回】

受講料 6,000円 定員 20名

横浜市では、地産地消の普及・促進に努める「はまふうどコンシェルジュ」を育成する講座を開催します。

※詳しい日程や申込方法は市のHPIに掲載します。
※申し込む際には、申込動機や地産地消に係る活動実績を提出いただけます。
定員を超える応募があった場合は、提出物の内容から参加者を選考させていただきます。

NEW

やるじゃん横浜 収穫体験パーク



収穫体験や農業体験ができる市内の農園を検索し、予約や決済ができるWEBサイト「やるじゃん横浜収穫体験パーク」がスタートしました! ぜひ下の二次元コードからチェックしてみてくださいね。



やるじゃん横浜収穫体験パークは、JA横浜と横浜市が連携して取り組んでいます。



はまふうどナビ 検索

Instagram
@横浜農場



はまふうどナビのバックナンバーは
ウェブサイトでもご覧いただけます

発行:横浜市みどり環境局農業振興課 令和7年2月発行
〒231-0005 横浜市中区本町6-50-10 TEL:045-671-2639 FAX:045-664-4425

花農家レポート2

パンジー・ビオラで花の楽しみを次世代へ
松田フラワーガーデン (港南区)

港南区にある松田フラワーガーデンは、日当たりの良い丘に広がる約3千平米の農園です。年間約30万ポットを出荷する市内では大規模な花苗農家で、栽培しているパンジーやビオラだけでも100種類以上あり、里山ガーデンフェスタを彩るビオラ・パンジーも、ここからやって来たものがあります。

花苗は市内園芸店へ出荷する一方、地域の幼稚園や小学校などでの花育としても提供しています。毎年近隣の幼稚園からの見学を受け入れており、園児たちは各々好きな花を選んで家に持ち帰ります。後日園児がお母さんを連れて再訪することもあるようです。

最近のパンジーやビオラは花卉に複雑な色調や模様が入るものが多く、さまざまな品種を交配する育種という作業によって生み出されています。代表の松田義雄さんは「今後は育種にも力を入れていきたい」と時流を見据えています。

また、地元の平戸永谷川で大規模なクリーンアップ活動を行う水辺愛護会へ20年以上にわたり花苗を提供しています。「実際に自分で手を動かして植えるという経験を、こんなにたくさんの人がしているというのは素晴らしいことだと思ってますね」と感慨深げに話します。提供するのとは年2回、毎回800ポットにもなるそうです。



松田義雄さん。元々の果樹農家から通年で栽培できる花農家に転身



松田さんオススメの花

Pansy & Viola
パンジー&ビオラ

花ひとつ一つの繊細な色合いや形を楽しむのが最近のパンジー・ビオラの傾向。こちらは落ち着いた色調が人気のビオラ「フロステッドチョコレート」



花の苗を提供している平戸永谷川河川敷での環境整備活動の様子(写真提供:平戸永谷川水辺愛護会)

INFORMATION

松田フラワーガーデン

横浜市港南区芹が谷5丁目11-15
(TEL)045-822-0384
花苗はグリーンファーム各店舗(金沢本店、戸塚深谷店、あい菜フローラ店)で販売中

https://www.instagram.com/garde_n8787/



花農家レポート3

花ある暮らしを根付かせたい
加藤園芸 (神奈川区)

横浜市営地下鉄片倉町駅から徒歩10分ほど。丘の上にある温室に近づく、ガラス越しに見える色とりどりの花が、心を沸き立たせてくれます。加藤園芸では先代から花の栽培を開始し、現在は春～夏にポチュラカ、秋～冬にシクラメンとパンジー、ビオラを中心に育てています。

花は色や形の流行が毎年変化するもの。加藤園芸の主力であるシクラメンは農園での直売が中心で、お客様の声を直に聞けるのが強みです。「どれが今年受けがいいのかと迷うことも。でも、そのフィードバックが直接返ってくるのが面白いところ」と代表の加藤佑太さんは話します。

加藤さんは神奈川県花き園芸組合連合会の鉢物委員会副委員長で、GREEN×EXPO 2027にも関わっています。GREEN×EXPO 2027に期待するのは、SDGsの観点で重要視される現代に即した技術を取り入れること。施設栽培の暖房や扇風機の使用を減らす技術を見つけたり、ポットをリサイクルしたりできないかと、準備会合で積極的に提案しています。そしてもう一つの願いとして「GREEN×EXPO 2027を通して、花のある暮らしが普通になってほしい」と話します。華道やアレンジメントの知識がなくても、普通の人の普通の暮らしに取り入れてもらえたらと願っています。



鉢の下のマットから水を吸い上げる「底面給水」という方法を導入。購入後の水やりは時間を問わず鉢皿に水を入れるだけ。「管理が楽」とお客様からも好評です



加藤さんオススメの花

Cyclamen persicum
シクラメン

冬の贈り物として定番のシクラメン。葉の真ん中に花が咲く美しい形は、半年にわたる毎日の手入れのたまもの。1年以上かけて何度も植え替えを行い、ていねいに育てられます



加藤佑太さん。シクラメンや花苗の生産を始めたお義父様から教わり10年になるそう

INFORMATION

加藤園芸

横浜市神奈川区菅田町2977-4
(TEL)045-413-2360
現地直売は毎年11月下旬～12月に実施

https://www.instagram.com/katoengei/

現地直売の詳細な日程はInstagramをご覧ください



GREEN×EXPO 2027

2027年3月19日(金)～9月26日(日)
場所:上瀬谷(瀬谷区・旭区)

私たちの生活に大きな影響をもたらす気候変動に着目した、環境と共生し市民の皆様と共につくる、「環共」をテーマとする日本で初めての国際博覧会です。自然・人・社会が共に持続するために、地球の限界や脱炭素社会を見据え、「人々の環境への意識や行動は2027年の横浜から変わった」と言われるよう準備を進めていきます。



コラム



ハマロード・サポーター活動で植えられた花(青葉区)

市民がはぐくむまちの花

横浜には、ボランティア活動で街中を花や緑で美化する仕組みがあります

公園で日常的に清掃や除草などの管理を行う地域ボランティア団体を、横浜市は「公園愛護会」として支援しています。その数、なんと約2,500団体。花苗やごみ袋等の物品提供などの支援があり、見事な花壇をつくることや、落ち葉を使った堆肥置場づくり、樹名板づくりをすることなど、活動はバラエティ豊か。同じように、河川やせせらぎ緑道など身近な水辺の環境を良好に保つ「水辺愛護会」や、身近な道路の清掃や美化活動を行う「ハマロード・サポーター」があり、横浜市では市民の力によって美しい環境が保たれているのです。



つながる花の生産者 JA横浜花卉部

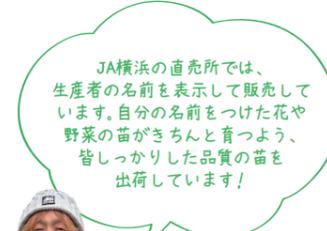
里山ガーデンフェスタを支える花農家ネットワーク

冒頭で紹介した春と秋の里山ガーデンフェスタをはじめ、横浜で年間通じて開催される数々の緑化・園芸系のイベントには、市内の生産者から仕入れた花が使われています。こうした大規模イベントや公共事業で求められる大量の花の提供時に活躍しているのが、JA横浜の「花卉部」という花農家86名のネットワークです。現在、花卉部で部長を務めている神奈川区の花苗農家・餅田伸行さんは、「横浜市の花農家同士はみんな仲が良いですね」と話します。農地の面積に限られている都市農業の横浜では、一つの農家で大量の出荷を賄うことが難しいことあるのですが、協力し合って地元産の花あるまちづくりに貢献しています。

地産地消め知識

外で育てる花や野菜の苗は、環境の違う遠方から仕入れるよりも同じ気候の近場で栽培したものの方が強く育つ場合も。これから春のシーズンは、JA横浜の直売所に花苗農家が育てた質のいい花や野菜の苗が並びます!

JA横浜の直売所では季節ごとの花も販売



JA横浜の直売所では、生産者の名前を表示して販売しています。自分の名前をつけた花や野菜の苗がきちんと育つよう、皆しつかりした品質の苗を出荷しています!



JA横浜花卉部 部長の餅田さん

品評会に出品し、栽培の腕前を磨きます

INFORMATION

JA横浜

直売所「ハマッ子」「メルカート」を市内14支店に併設
https://ja-yokohama.or.jp/tenpo/map

